

「家がいいね」 第36号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2007. 5. 1

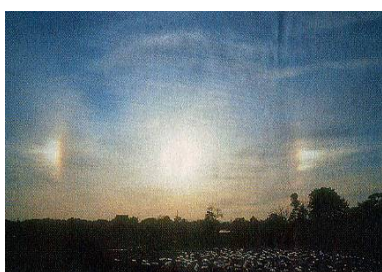
不思議ですね。振り返って自らの生活にこんな違いがあると気が付くのが、ほぼ1年の事が多いものです。ちよと季節が一巡りする頃合いです。それも大地に縛り付けられてある樹々が教えてくれます。花や若葉は、いのちが再び巡るものであることを、動き過ぎる私達に教えてくれます。樹を見るのなら梢の手前をこらんなさい。いのちを空高く押し上げる幹こそ素晴らしいと思いませんか。



間に合ったかな

当クリニクの仕事。上手く行ったかどうかは別に、その方の人生が成就するのを見守りません。人の世は生老病死、生まれるのも苦痛抜きでは在り得ないため助産師さんがいます。だから最期の段階を和らげる「助死師」も必要でしょう。

最近では、2〜3回も往診しないで見送る例が続きました。しかし、その場に居合わせる縁が、最後の最後で繋がったことへの不思議を感じます。それも後にして知る事ですが、「もしもの時は、こうしておくれ」とご本人の気持が何処かで繋がっていったお陰だと思えます。願わくば、生前そう言い出す言葉を、家族が「今そんなことを言わないで」とささぎらずに聴き取る事が大切でしょうね。これには心の練習が必要だと思えます。



さてこれは3月早朝の往診の帰りに、私が受け取ったプレゼントです。その方もベストタイムを自分で選ばれ旅立ちました。普段見る事の出来ない「幻日」という現象だったと、翌日の新聞のこの写真で知りました。

お木曳きも始まる

大切なものを残す二通りの方法があります。風雪にも耐える強固な形に作るか、壊れるものとしても守り方を次の世代に伝えてゆくか。先達は後の道を自然に選びました。どんな高層ビルも解体され更地に戻されてみると、人の営みは地表の本来に小さな範囲だなあと思います。



明日を待つ時間



緩和ケア講演会

みえ生と死を考える市民の会の講演会です。

講師 柏木哲夫先生 (金城学院大学学長・医師)

「人生の実力」〜2500人の死をみつめて わかったこと〜

日時 6月10日(日) 13時半〜16時

場所 フレンテみえ 多目的ホール (三重県総合文化センター) 一般900円 (前売り取扱中)

「認知症は いま」

市民の会がNHKと共催して、認知症フォーラムを開きます。無料ですが整理券が必要です。

日時 7月7日(土) 13時〜15時半

場所 鈴鹿市文化会館 けやきホール 500名

基調講演 「認知症 地域社会を支える」

講師・シンポジスト 遠藤英俊氏 (国立長寿医療センター)

大洲律子 (三重大学看護学科)・泉美幸 (認知症家族会)

小島東美 (北名白屋市保健師)

総合司会 村井美代 (保健衛生士 七栗サナトリウム)



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805 三重県伊勢市御園町高向 927
 電話 0596-20-8104
 ファクス 0596-20-8105
 mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>